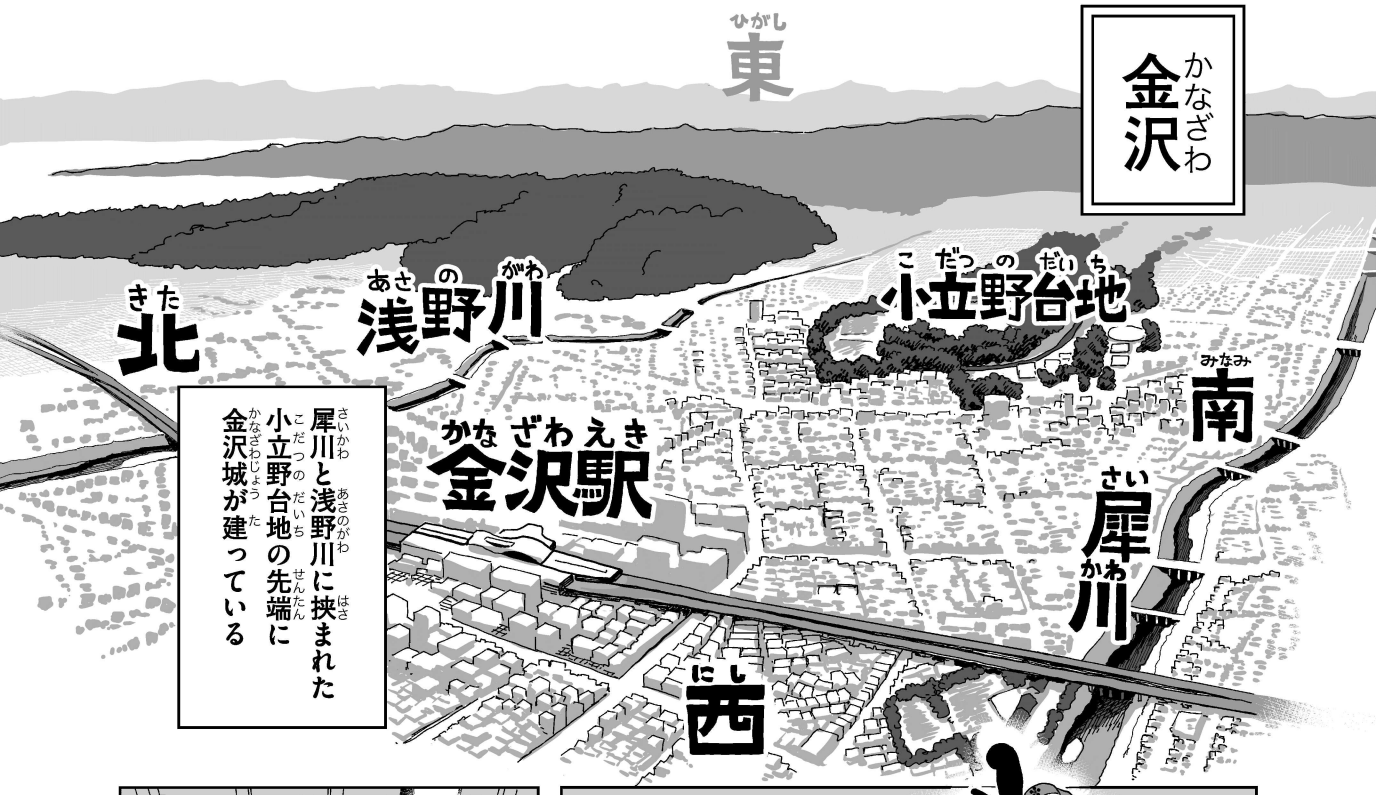

金沢
職人ばなし

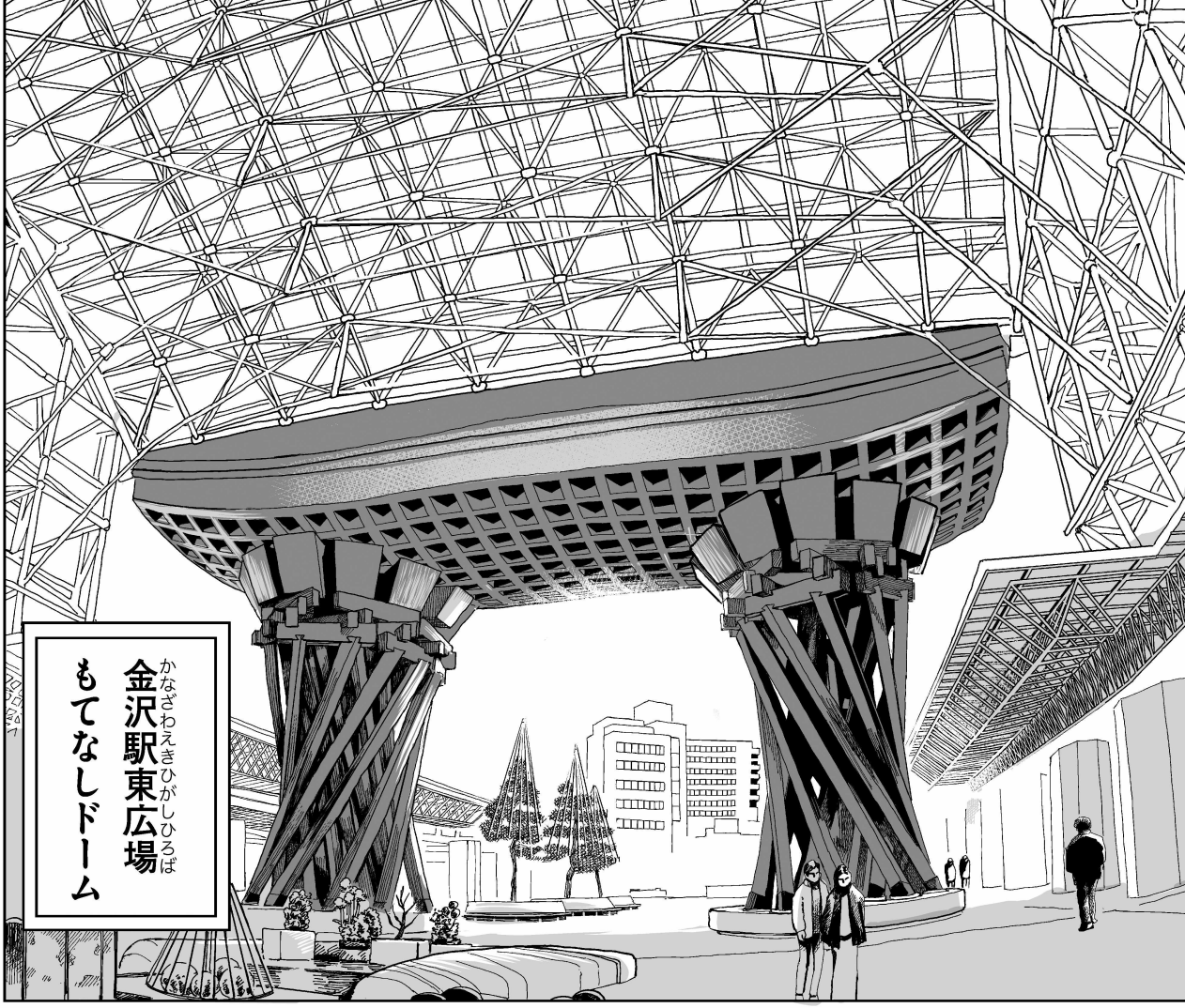

東京から
2時間半
新幹線で
たどり着いた
そのまち

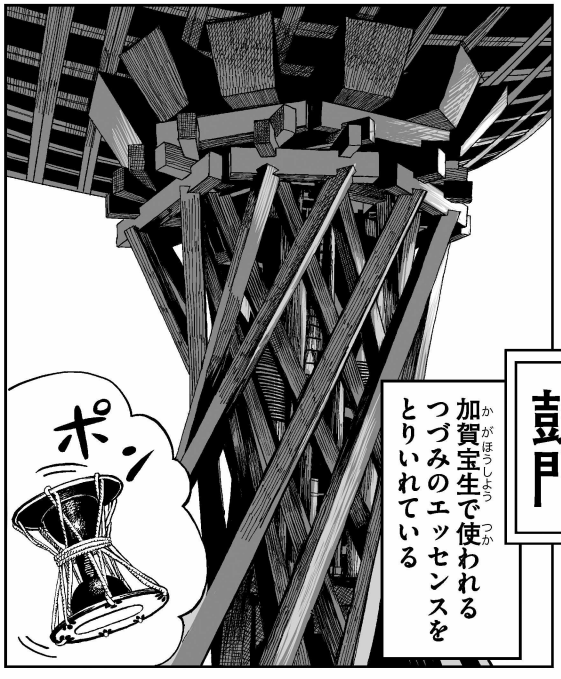
金沢（かなざわ）


東
北
浅野川
小立野台地
南
金沢駅
犀川
西
犀川と浅野川に挟まれた
小立野台地の先端に
金沢城が建っている


16世紀末に加賀百万石の
祖である前田利家が
この金沢城に入城して以来
この金沢の城下町は
約285年にわたって
加賀藩の拠点として栄え


カナザワ
当時の人口は
江戸・大坂・京都の
三都に次ぐもの
だったという


金沢駅東広場
もてなしドーム


鼓門
つづみもん
加賀宝生で使われる
つづみのエッセンスを
とりいれている
ポン


歴史が好きな僕は
以前からこの金沢に
どうしても来たかった
北陸に
歴史と伝統を守りながら
近代的なまちづくりをし
ているかっこいい都市が
あるとずっとウワサに
聞いていたからだ
ほーーっ


これが
金沢か…！
さァ
どこから
めぐろう…！

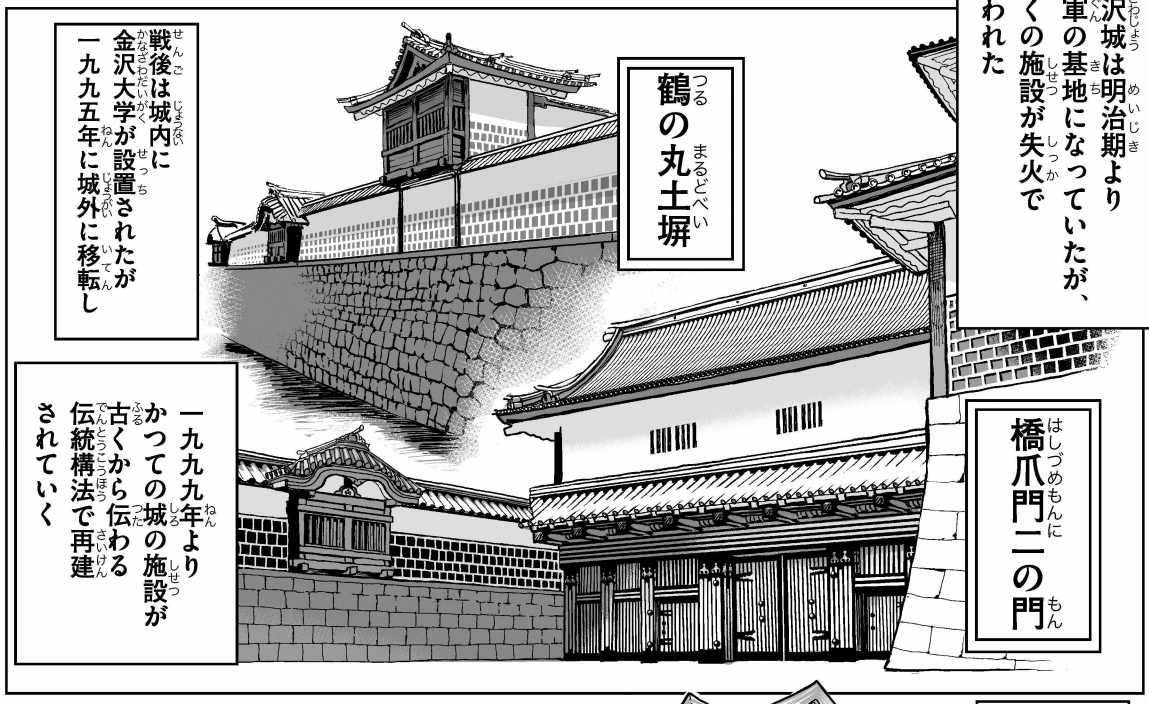
歴史好きのハシクレとしてまずは

金沢城





金沢城は明治期より
陸軍の基地になっていたが、
多くの施設が失火で
失われた

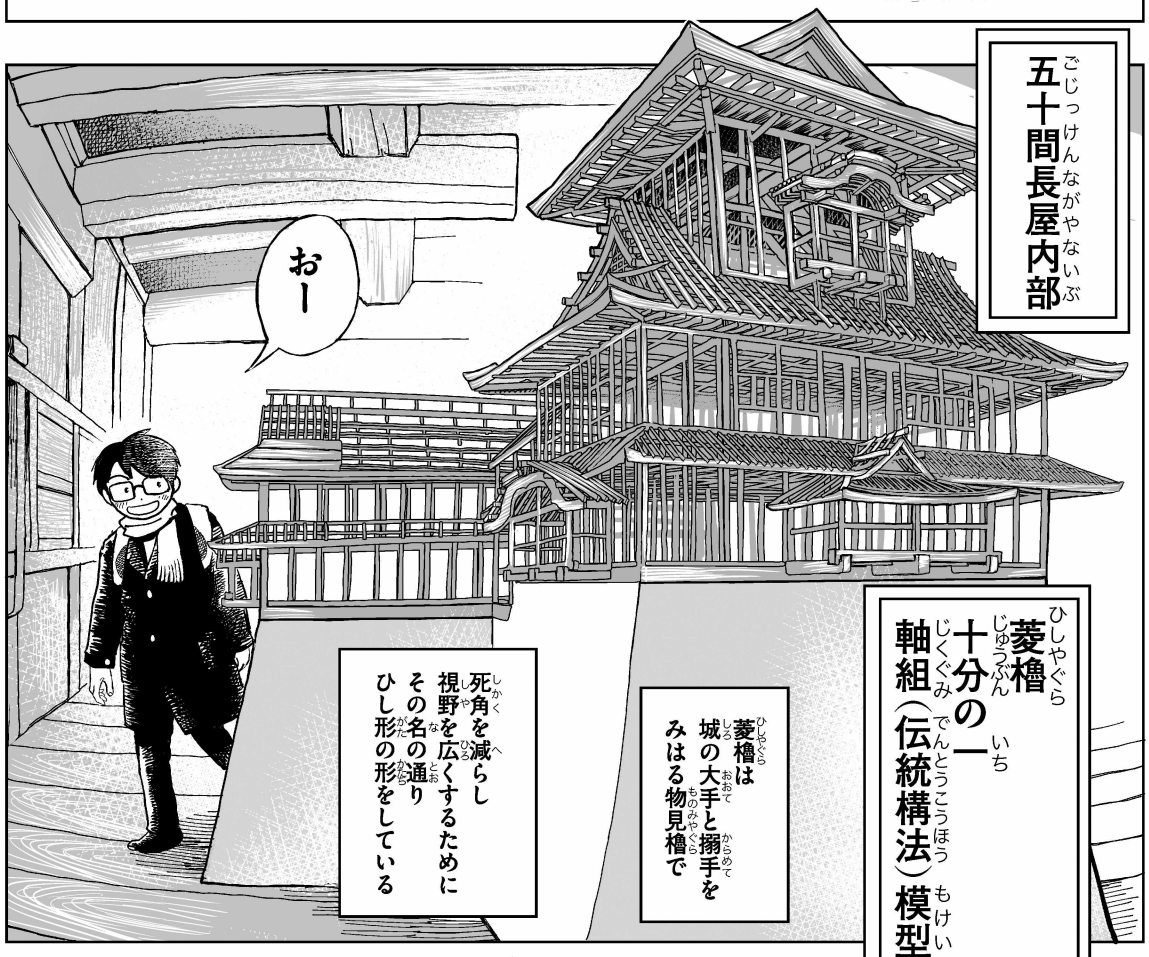


鶴の丸土塀

戦後は城内に
金沢大学が設置されたが
一九九五年に城外に移転し

橋爪門二の門

一九九九年より
かつての城の施設が
古くから伝わる
伝統構法で再建
されていく



五十間長屋内部

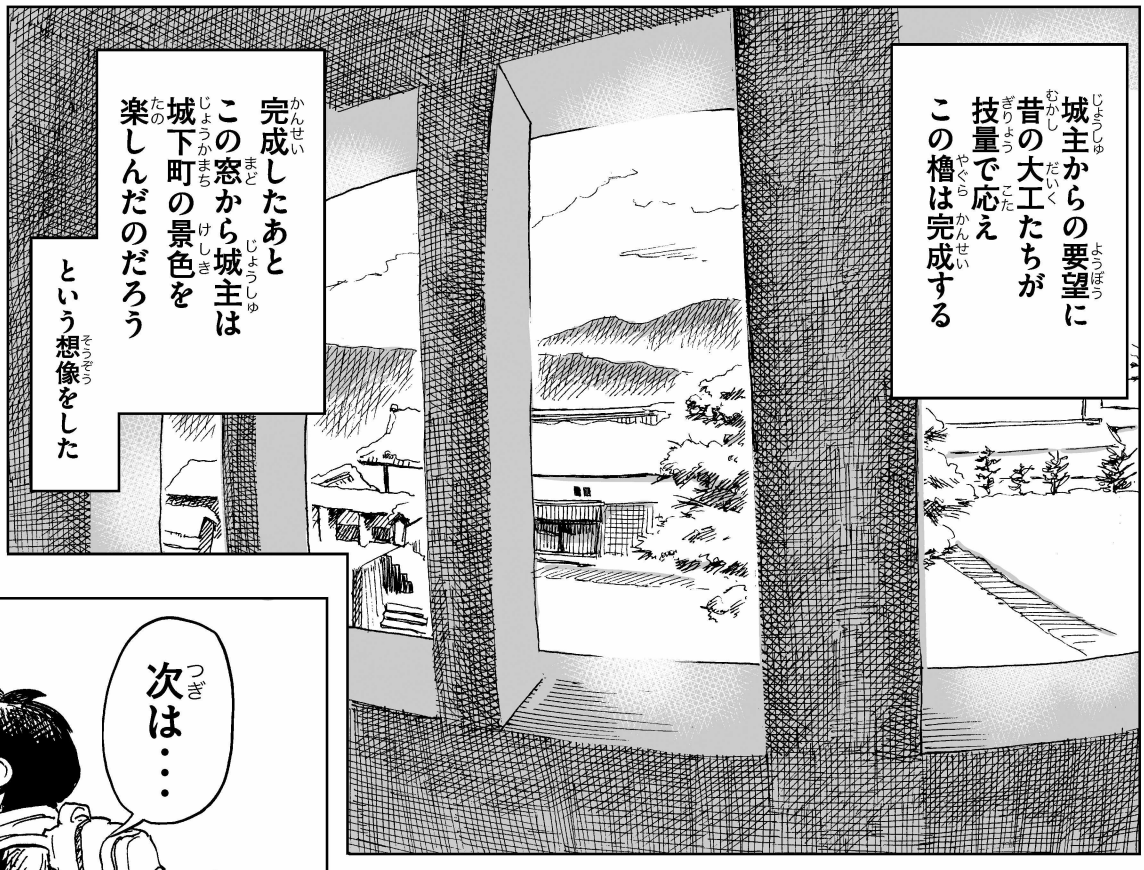
菱櫓は
城の大手と搦手を
みはる物見櫓で

死角を減らし
視野を広くするために
その名の通り
ひし形の形をしている

菱櫓十分の一軸組（伝統構法）模型


しかし
建物がひし形
ということは
柱もまた ひし形


ひし形の柱
そうすると
梁など他の部材も
すべてひし形に合わせて
加工しなくてはならない
という…
うへー
なんとも複雑で
難しい構造に
なっているのだ


城主からの要望に
昔の大工たちが
技量で応え
この櫓は完成する
完成したあと
この窓から城主は
城下町の景色を
楽しんだのだろう
という想像をした


次は…

兼六園（けんろくえん）

五代藩主（ごだいはんしゅ）
前田綱紀（まえだつなのり）が別荘（べっそう）を建（た）て
そのまわりを庭園（ていえん）にした
ことから始（はじ）まった

雪吊り（ゆきづり）

雪（ゆき）の重（おも）みで
枝（えだ）が折（お）れないように
支（ささ）えているんだ

しかもただ支（ささ）える
だけじゃなく
それ自体（じたい）が景観（けいかん）
として面白（おもしろ）い
きれいだ

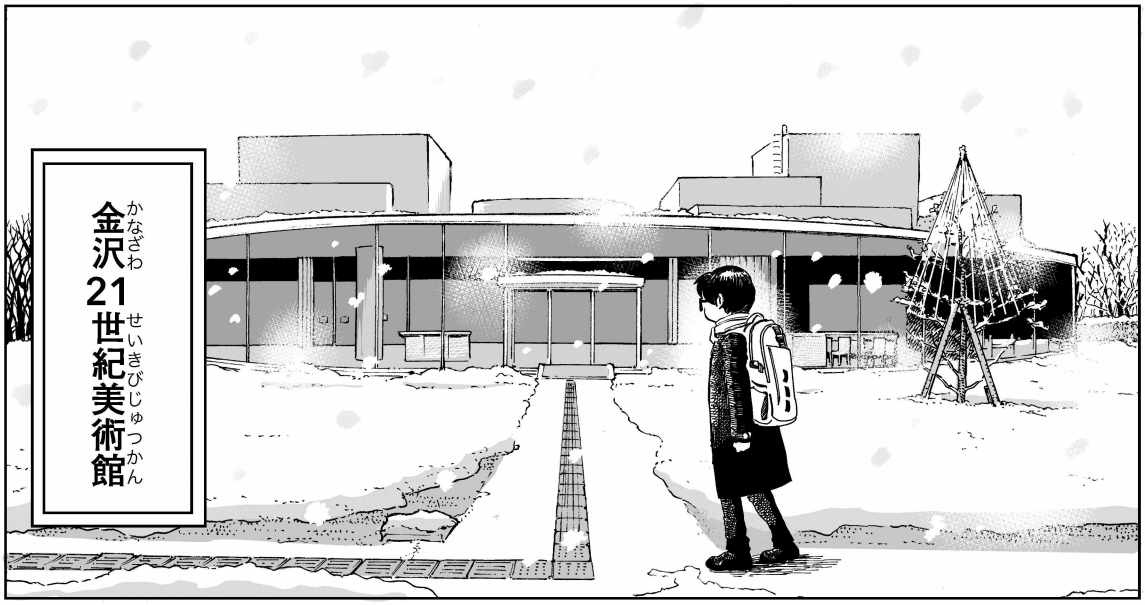
まさに大名庭園（だいみょうていえん）

日本（にほん）で美（うつく）しいと
されるものが
大胆（だいたん）かつ繊細（せんさい）に
配置（はいち）された空間（くうかん）だった

兼六園（けんろくえん）の茶屋（ちゃや）で
景色（けしき）を見ながら
あんころもちと
そばをたべる


ハァー
楽しかった
スポ…
「和」の
エッセンスを
満喫……！


しかし
すごい雪だなー
防水機能のある靴を
はいてきて
ほんとに良かった


金沢21世紀美術館


先程までの
「和」のかっこよさとは
また違うけど
すごい透明感…
近未来的でかっこいい
大学時代
多くの同級生が
休み期間にここを
訪れていたのを
思い出した

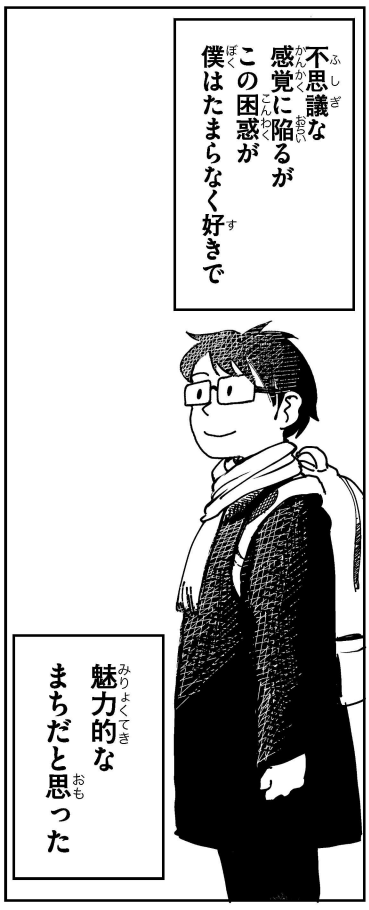
古くから
この地に根付き
育まれ伝わってきた
侘び寂びの感覚と

既存の概念に
とらわれない
斬新な美的感覚

このまちでは
それらが
渾然一体と
なっている

不思議な
感覚に陥るが
この困惑が
僕はたまらなく好きで

魅力的な
まちだと思った





大手町のゲストハウス

一二〇年前に
建てられた町家だが

現オーナーさんや
宿主夫婦が
現代的なテイストを
盛り込みながら
自宅兼ゲストハウスに
改修したそう

木と土に囲まれて
しっとりとした
空気感…

通り土間や客室は
明治期のノスタルジーを
感じ取れる要素を
残しつつ

町家…民家の一つで、商家や職人の店舗兼住宅のこと

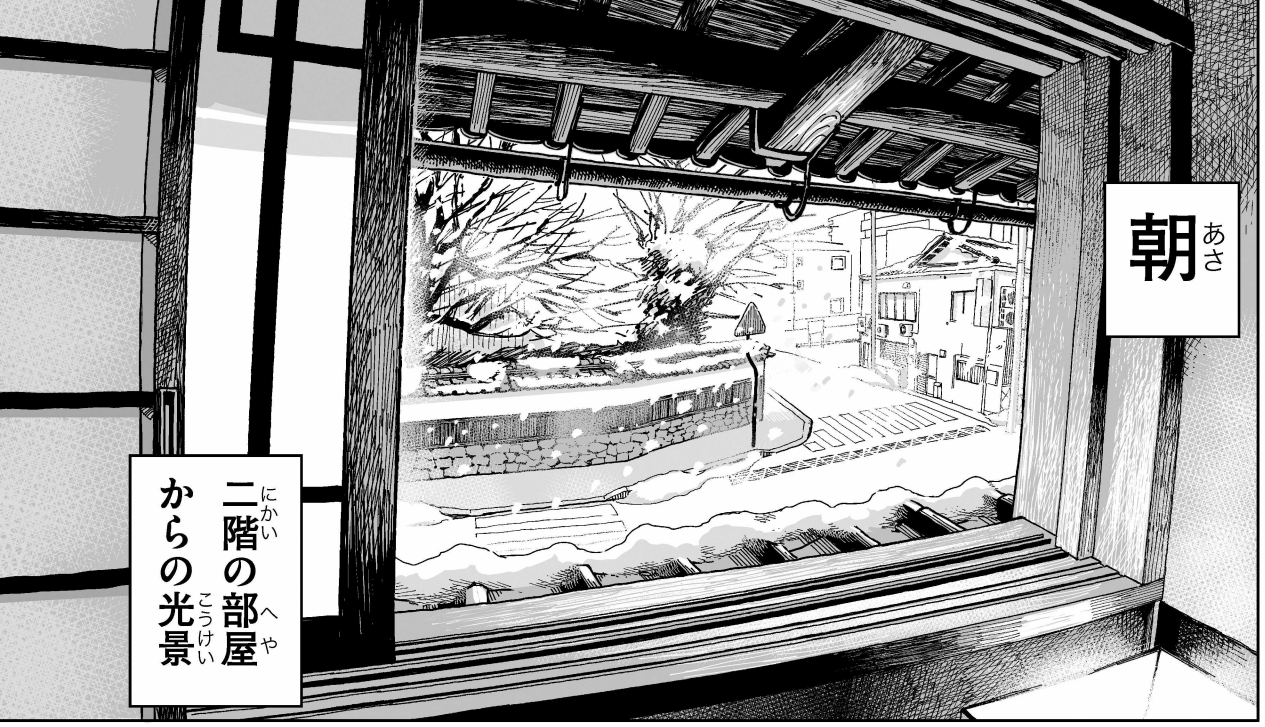
キッチンラウンジは
まるで喫茶店のような
現代的な内装になっている。

こんばんは〜

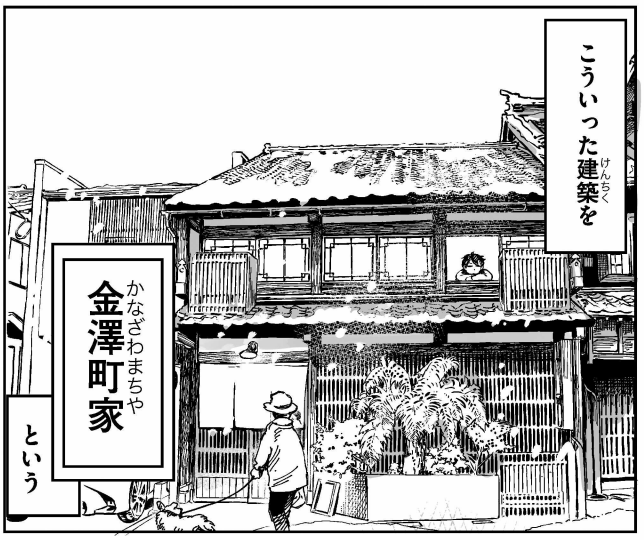
こんばんは〜

あっ

ここで旅人たちが
集まって会話したり
ゆっくりと
くつろいだりする









そういったものを現代まで金沢の人々は文化として大切に受け継いできた

そんなワケで
これから金澤町家をめぐりながらその特徴を見ていこうと思う



野町の味噌・醤油の醸造・販売店

築二百年の金澤町家で約百二十年にわたって醤油や味噌をつくり続けてきた老舗醸造店



火袋（ひぶくろ）

採光・通風のための吹き抜け空間。大体の場合、トオリニワの上にある

トオリニワ

通路のように細長い土間
店の間、茶の間、座敷の脇を町家の奥まで貫いている


大工町の畳店
袖卯建
装飾の意味も兼ねた防火壁
サガリ
雨や雪がふきこんで室内のものが傷むのを防ぐ横板
蔀戸
サガリによって店の間上部が暗くなったぶんこの蔀戸で採光をする
19世紀初期から建っている金澤町家
明治初期から畳屋の立野家がこの建物を所有している
現在、8代目克典さんが畳を縫っているところを見ることができる


簾虫籠
細い割竹による
すだれのような格子
繊細な美しさを持っており
金沢の職人の美的センスが光る
おっほ〜 開店だ〜
この蔀戸は
二枚組で磨り上げ式に
なっており
夜になるとシャッターの
かわりになる。



明治末に建てられた
間口6間半の立派な金澤町家
鍛冶屋として創業したが
現在では5代目店主高木猛さんが
こだわりぬいた金物の生活用品や
伝統工芸品を販売している

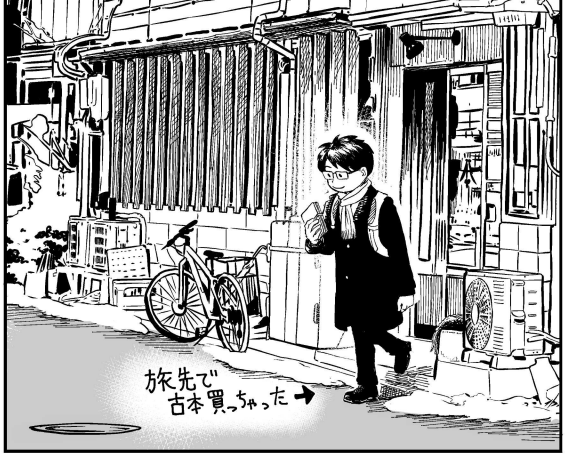


雪の多い金沢では
トオリニワを蔵の入口まで
つなげ屋根をかけることで
屋外に出ず蔵に入れるタイプの
町家が多い





この屋内は原則撮影禁止です。
特別に許可を得て参考用写真を撮影いたしました。


旅先で
古本買っちゃった


金沢城だけじゃなく
町人たちが
住んでいた町家にも
北陸ならではの創意工夫が
みられる

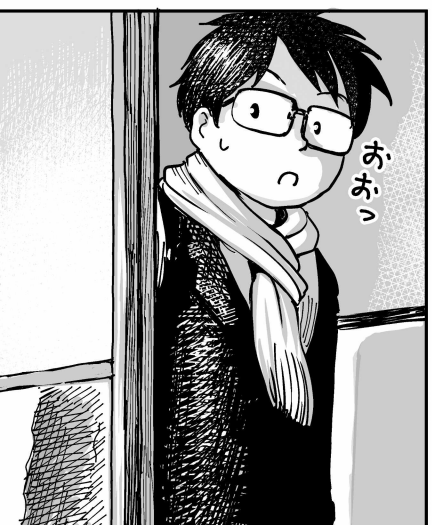

文化は風土から
生まれるのだなあ


長町武家屋敷跡
ながまちぶけやしきあと
加賀藩の藩士たちが
住んでいた町で
藩政時代の土塀の続く路地を
今でも見ることができる


その長町武家屋敷跡の
中には現在一般公開
されている屋敷跡もある






おおっ

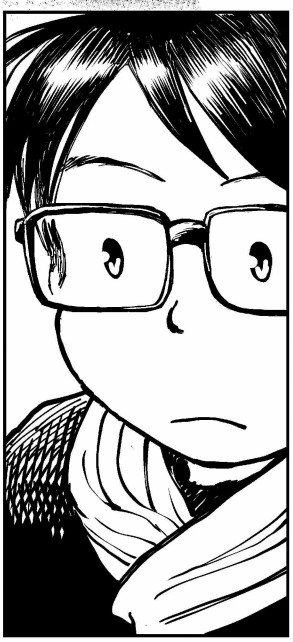
屋内の柱や壁と
屋外の庭が一体となり
この空間を構成している
ありとあらゆる要素に
創意工夫がこめられている

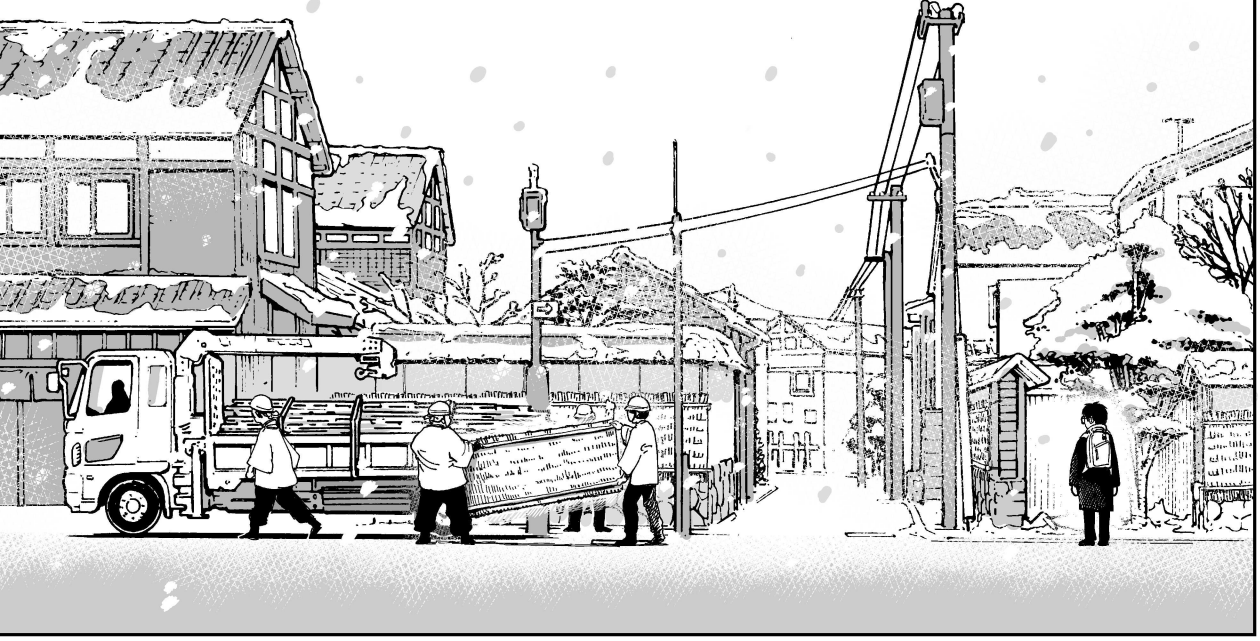
まるで
北陸の風土と文化を
一箇所に凝縮した
ような世界観だった



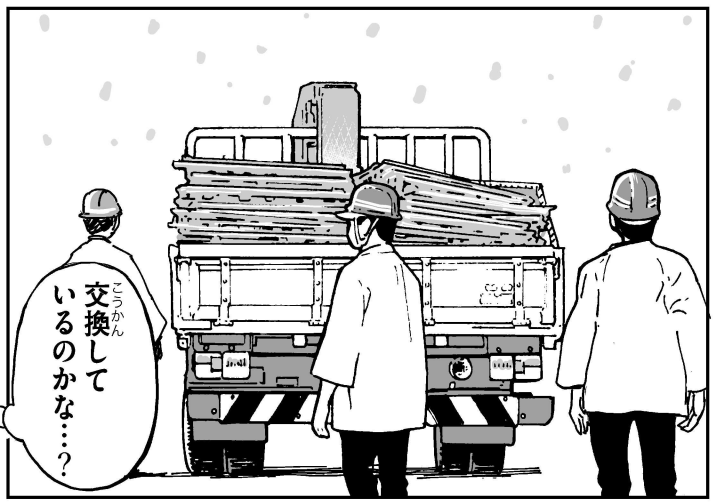

こうなってくると
目に入るものすべてに
意図がこめられて
いるように見えてくる


これは
なんだろう

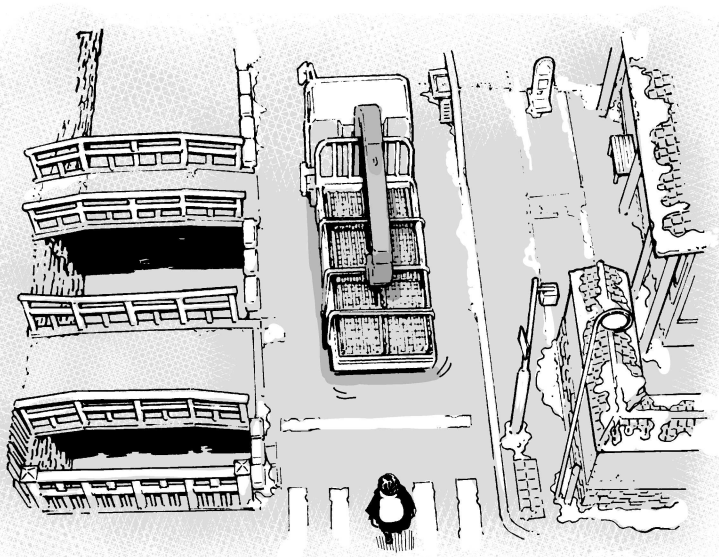








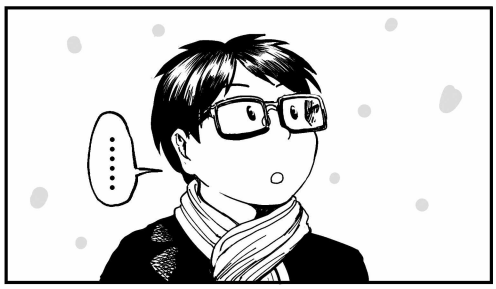
ついていってみることにした

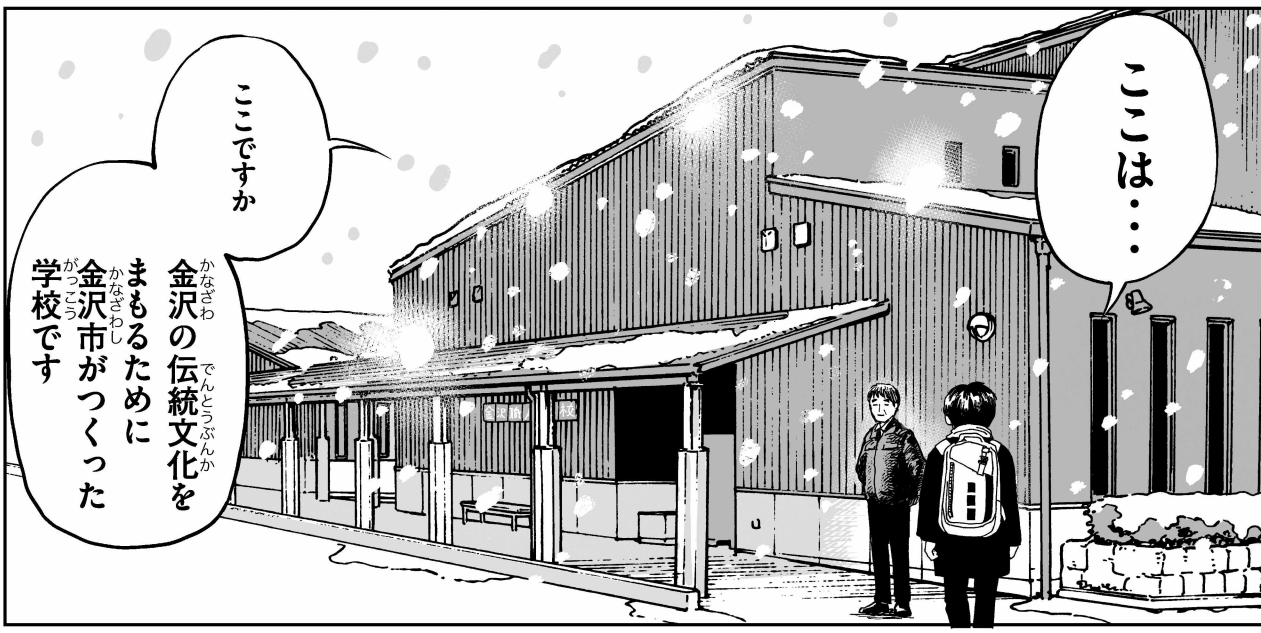


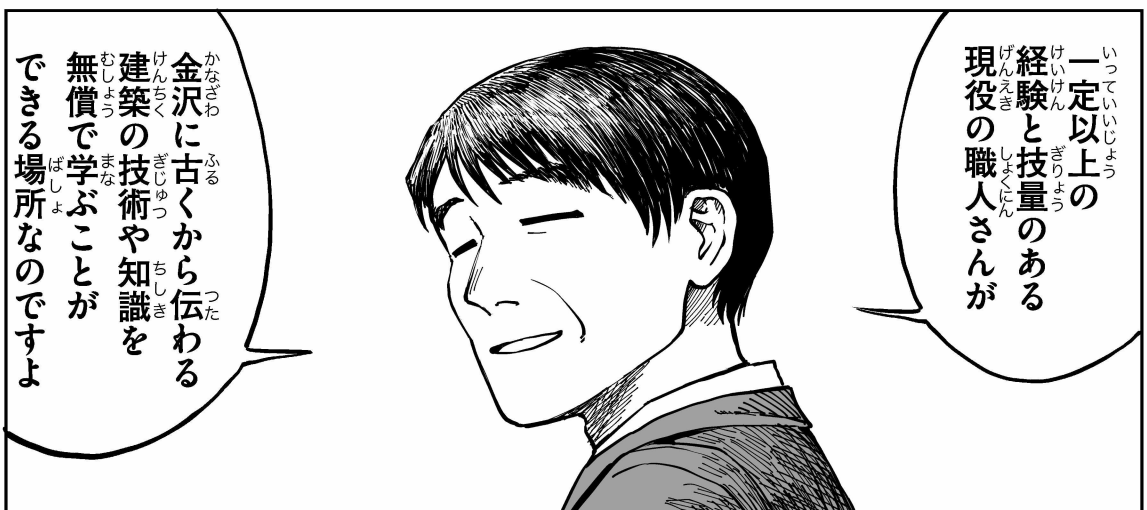

金沢職人大学校


あれは
藁という
ものですよ
土塀の上から
かけてあげることで
土中の水分が凍るのを
防ぐためのものです



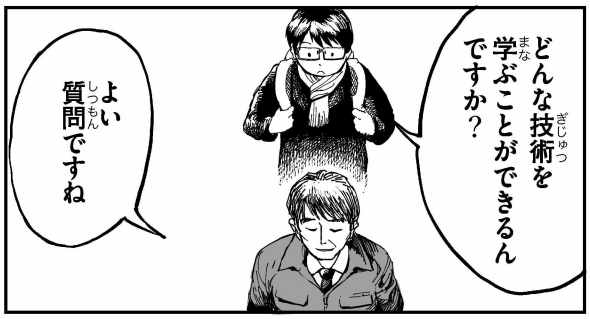

……


ここは…
ここですか
金沢の伝統文化を
まもるために
金沢市がつくった
学校です


一定以上の
経験と技量のある
現役の職人さんが
金沢に古くから伝わる
建築の技術や知識を
無償で学ぶことが
できる場所なのですよ


無償で!?


ええ
そうです
このまちの歴史に
責任を持たなければ
なりませんから
金沢市
力の入れ方が
すごい…


どんな技術を
学ぶことができるんですか？
よい
質問ですね


この学校には
伝統的な手仕事の
技術をまなぶ
本科と
歴史を読み取り
修復する技術をまなぶ
修復専攻科という
2つのコースがあります
本科は
全部で9つ

大工科（だいくか）

瓦科（かわらか）

板金科（ばんきんか）

石工科（いしくか）

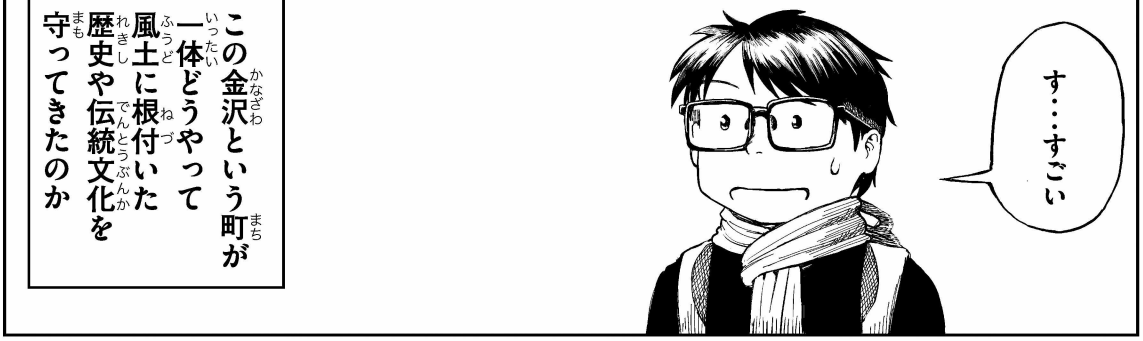
建具科（たてぐか）

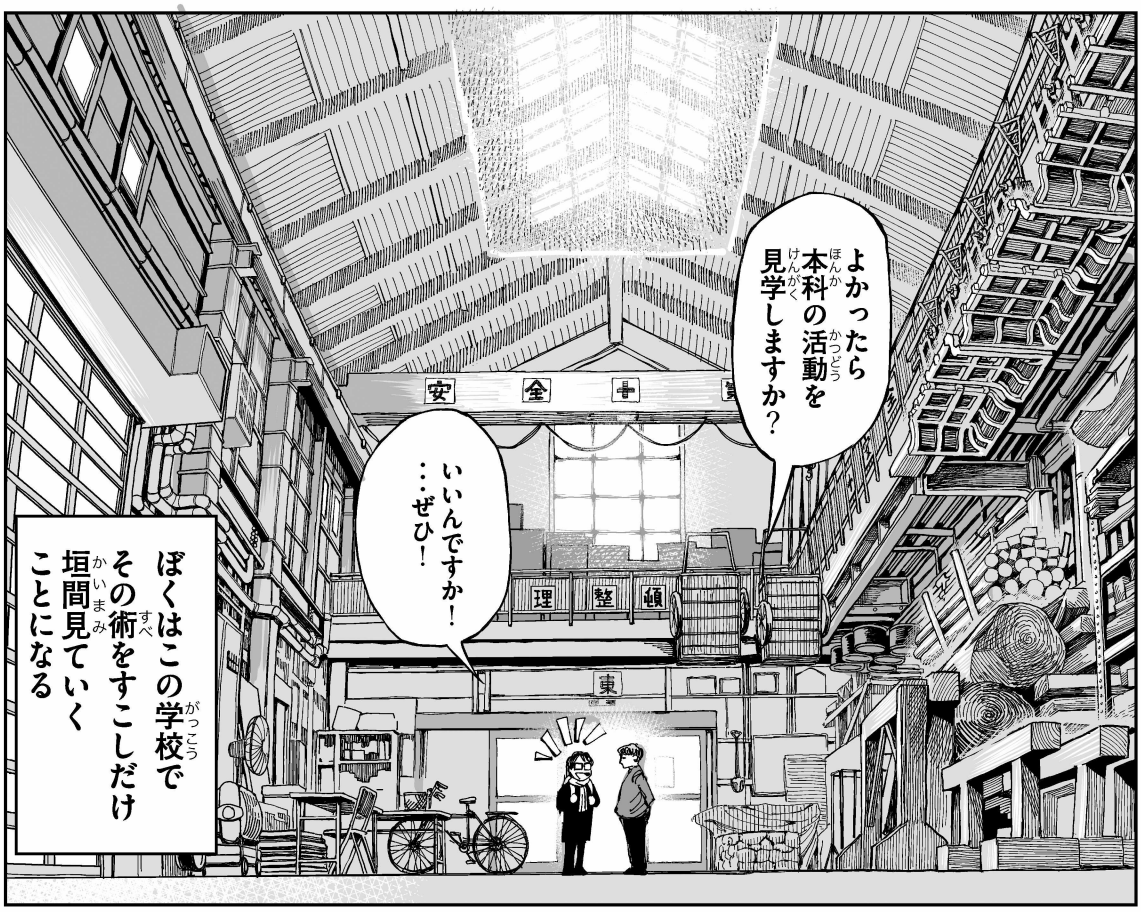
左官科（さかんか）

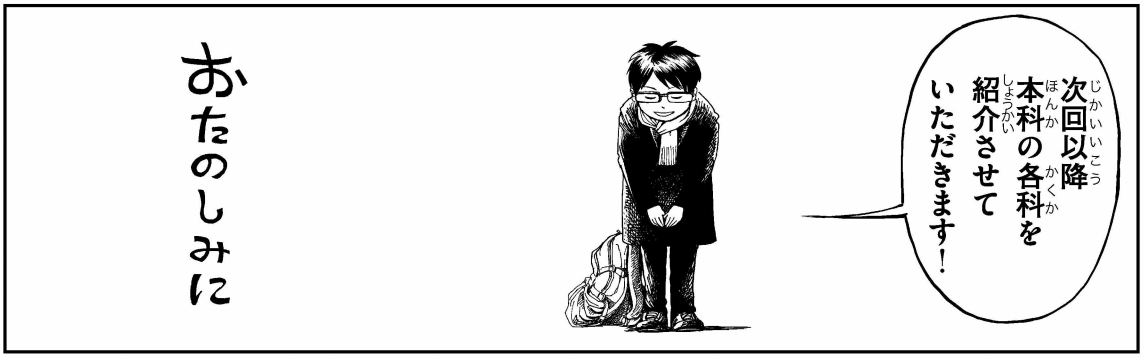
畳科（たたみか）

表具科（ひょうぐか）

造園科（ぞうえんか）


す…すごい
この金沢という町が
一体どうやって
風土に根付いた
歴史や伝統文化を
守ってきたのか


よかったら
本科の活動を
見学しますか？
いいんですか！
…ぜひ！
ぼくはこの学校で
その術をすこしだけ
垣間見ていく
ことになる


次回以降
本科の各科を
紹介させて
いただきます！
おたのしみに

金沢職人ばなし
2023年1月10日発行

発　行　公益社団法人 金沢職人大学校
〒920-0046 石川県金沢市大和町 1 番 1 号
Tel 076-265-8311　Fax 076-225-8314
Webサイト http://www.k-syokudai.jp/
漫画家　坂上暁仁
©金沢職人大学校2022　<禁無断複製>